

# 徒然なるままに…31

—リンクの仕方と学習活動の展開—



平成27年6月16日  
白鳥小学校 研修部

遅ればせながら…

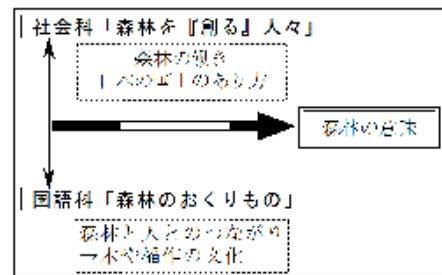
激動の行事で、まさに綱渡りのような毎日ですが、皆さん、疲れておられませんか。季節柄、お互い気を付けたいものです。(私には、あまり説得力がありませんが…)

早いもので、6月も半ばを迎えました。刻々と10月30日の×デーが近づいていますが、これからの動きなど、詳細をお出しできないために、なかなか実感がわからないというのが正直なところでしょうか。しかし、授業づくり、学級づくりに関しては、少しずつ起動に乗っていることと思います。

さて、先日の全体研究日には、各学年の「白鳥ぶらん」を提案いただきました。大変な日程の中、どの学年も、綿密にプランニングされていたことを感じました。ありがとうございます。今回は、5年のプランを例に、リンクの仕方について、お話ししたいと思います。各学年のプランをより改善し、また、有意義に展開するための参考にさせていただければ幸いです。

私が考えるリンクには、三つの型があります。

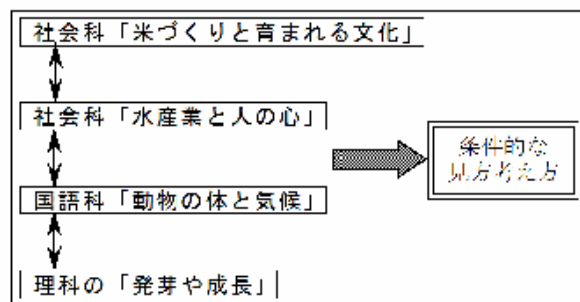
一つ目は、内容のリンクです。メイン教材の内容や活動を支え、助ける学習を組み合わせることで、社会科の「森林を『創る』人々」では、森林の働きと日本の国土のあり方を考えます。国語科の「森林のおくりもの」では、木や稲作の文化など、森林が私たちにもたらしているものから、森林と人とのつ



[ 資料1：内容のリンク ]

ながりを考えます。これらをリンクさせることによって、いろいろな切り口・観点から、学習内容を深めていくことができると考えられます。これを図示すると、[資料1]のようになります。

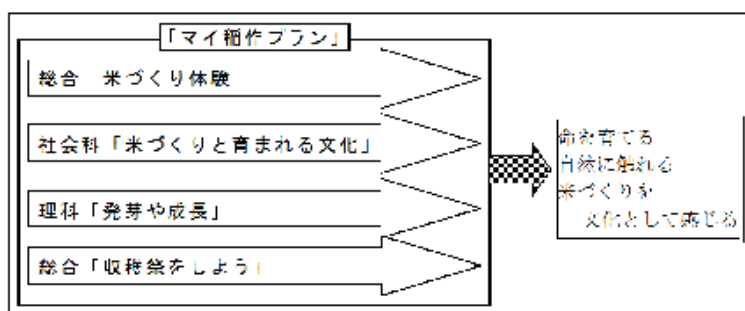
二つ目は、思考・認識の仕方のリンクです。メイン教材でさせたい思考・認識の仕方での学習を組み合わせ、いわば、訓練することです。社会科の「米づくりと育まれる文化」や「水産業と人の心」では、その地方でその産業が盛んなわけを「地形」・「自然」・「気候」・「人」・「歴史」など、条件的に明らかにします。国



[ 資料2：思考・認識のリンク ]

語科の「動物の体と気候」や理科の「発芽や成長」などでも、この条件的な見方考え方で学習します。このように、いくつかの見方考え方を意図的に使って思考・認識させることによって、様々な見方考え方を身に付けることをねらうことができると考えられます。これを図示すると、[資料2]のようになります。

三つ目は、一つのテーマ・問いに集約された単元展開です。メイン教科を中心に据えた上で、あるテーマ・問いに迫るために必要なくつかの学習や活動をを有機的に仕組むことです。「マイ稲作プラン」は、命を育てること、自然に触れること、米づくりを文化として感じる事がねらいです。これを達成するために、総合で具体的に米づくり体験を仕組んだり、社会科「米づくりと育まれる文化」で、米づくりの現状や文化を学習したり、理科「発芽や成長」では、インゲンマメの種のつくりや成長するための条件と米のつくり、育ちと関連させて学習したりと、包括的に単元展開することです。これによって、一つ一つの学習に目的が生まれ、点在する学びを一つ



[ 資料3：一つのテーマ・問いに集約された単元展開 ]

のテーマ・問いによって筋道立て、一本の学びへと紡ぐことができると考えます。これを図示すると、[資料3] のようになります。

社会科ばかりではありませんが、純粋にその教科・領域のみで展開することは、難しいことです。そこで、何をテーマ・問いとし、教科、総合的な学習、行事等とどうリンクさせて、1年間の学びに紡いでいくかを考えることが必要になってくると考えます。

この考え方は、総合的な学習が実施された時期に言われ始めました。しかし、時数の補てん・調整に総合的な学習が使われることが多かったために、教科・総合のそれぞれのねらいをはっきりさせることが強調されることになり、リンクさせる考え方が薄れていった経緯があったように感じます。

そもそも、子どもの学びは、一本ではないでしょうか。「この内容は、この学習で理解させる。」とか「リンクするためには、この教科は、こんな題材と内容である必要がある。」というように、それぞれの教科・領域のねらいと内容を明確にした上で、それらを意図的にどう紡いで一本の学びを展開するかを考えることがまさに、「学びのデザイン」なのです。

私たちは、全国大会に向け、もうすでにスタートを切っている一方、運営、編集など、細かなことが決まらず、イメージがつきません。先生方には、申し訳ないと思っています。ですが、私たちに求められていることは、子どもに力を付け、その力を十二分に発揮することのできる授業をつくっていくことのように思います。とにかく、できることから取り組んでいきましょう。よろしくお願いいたします。